

令和3年度 学校長による自己評価・総合評価

【総合評価】

本年度も、新型コロナウイルス感染対策を行い、各種教育活動を進めて参りました。文化祭の梨の木祭では、児童生徒が主体的に内容の吟味や運営方法の工夫をし、感動的な場を創ることができました。梨の木祭後には、保護者より児童生徒の姿を認めていただく感想を大勢よりいただくことができ、励みとなっています。一人一端末のクロムブックの活用が進み、職員の研修もだいぶ進みました。ZOOM 会議や研修が増え、自校がホストとなつての教育課程研究協議会も円滑に進み成果を得ました。また、昨年度から試行し始めた第三者評価、放課後子ども教室も進んできています。また、本年度は、創発的な授業づくりと教師の協働性の発揮を進め、複数学年での連携授業や複数担任制の試行を進めています。また、学校運営協議会の委員の皆さんに本年度より、共育展望会議に参加いただきました。回数も1回増やし、PDCAを2回回すことにしました。検証をし、次年度に繋げます。10月より学校関係者の訪問、その他市町村の行政視察を受け入れました。多くが「義務教育学校としての成果と課題」「コミュニティ・スクールとしての成果」等の課題をもつての訪問でした。少子化が進む現在に於いて、特に各自治体は課題意識をもち、これからの教育行政についてそれぞれの方向を模索しています。視察される多くの方々には、子どもたちの主体的な探究の姿、対話活動、見方・考え方を深める授業づくり等に驚かれます。

地域と共に共育(教育)にあたる美麻の地での充実した教育環境で、児童生徒が主体となって授業を創ることが職員の喜びであり、地域の皆さんと共に子どもを育てていくことが本校の強みであると伝えています。さらに、これからの社会を見据え、その社会を生き、未来を創る子どもたちへの教育の在り方を求め続け、学び続けていけたらと思います。

《自己評価から見える課題と方向》

- 1 教育課題を「協働の学びの質を高める」とし、全教職員で取り組んで来た成果として、授業に対する児童生徒の肯定的な評価が、昨年度を上回る高い状況を維持している。対話を軸とする協働の学びが浸透し、児童生徒の生の言葉からも常に「対話」がつぶやかれ、授業や集会、行事などで日常化してきている。ジャンプ期の8・9年生の評価が高く、9年間後半での熟成が際立つ。一方、協働の学びの中に加え、指導の個別化と学習の個性化を進めていき、協働性を核として個に応じた指導を進めていく必要がある。
- 2 将来の夢や希望をもち、あるいは目指したい職業を描く児童生徒がジャンプ期で減少した。職場体験の工夫やキャリア・パスポートの運用、夢の時間・市民科を含め、キャリア教育を進めたい。来年度は、授業や生活における自己有用感を高められるよう、体験活動での効果を図りたい。
- 3 元気アップ運動について、2割近くの児童生徒が否定的な気持ちを持っている。ジャンプ期になるとそのよさを感じ主



体的に取り組んでいる。活動の工夫をしながら、体力づくり・健康づくりの意識をさらに高めていきたい。自分の体力に気付く記録会ややる気が出る活動の工夫をし、運動の楽しさを味わいながら、自ら主体的に取り組む元気アップ運動を進めていきたい。

- 4 自治会活動や歌声づくりでは、ここ3年継続して「ミニミニグループ」を編成し、活動のなかで異年齢の関係づくりが深まってきた。一生懸命に取り組めない子に対して不満を感じている様子が、ジャンプ期の意見から読み取れる。児童生徒の活動への温度差をどう埋めていくかが課題である。さらに、個に応じた支援を丁寧に続けながら、児童生徒の主体的な取り組みを見守り、改善を図っていきたい。

《具体的な取組への展望》

- 1 協働の学びの質をさらに高めるために、魅力的な学習問題の設定、目的意識をもった対話、児童生徒が主体的に自分ごととしての授業づくりを進める。個々の教員が自分ごととして進めていく課題研修は、ミッション探索カードを活用し、副校長との個別面談を展開しながら、個々に指導者を招聘し、研修推進に厚みを持たせる。
- 2 児童生徒が、自己有用感を培えるように、授業において友の役に立てたという対話の充実や大町ドリーム(キャリア・パスポート)の活用を進めていく。キャリア発達を促せるよう、社会見学や職業体験、市民科での記録をポートフォリオとしてファイルに残していく。コロナの状況に応じてキャリア発達を促す職業体験の場を工夫し設定していく。
- 3 学びに向かう力を育むために教職員のカリキュラム・マネジメントや創発的な授業づくり、これから必要とされる教師スキルの向上にかかわる研修を継続し推進する。
 - ・クロムブックの活用方法
 - ・市民科や夢の時間等の探究的な学びを支える教師の関わり
 - ・OPPシートやマインドマップ等思考ツールの活用方法
 - ・個々の特性を大切にし、可能性を伸ばす児童生徒理解
 - ・4CHモデルによる協働の学びづくり
 - 等
- 4 メタ認知により、自分の体づくりでのよさや課題を明らかにし、個人の体力向上方略を決め出したり、元気アップ運動の内容を工夫し、自分で設定した目標に取り組んだりすることで、運動の喜びと体力の向上を児童生徒が感じられるようにする。すこやかカードの効果的な活用を通し、健康の保持増進や豊かなスポーツライフを実現しようとする素地をつくる。
- 5 対話を基盤とした自治会による集会や歌声づくりを進め、児童生徒主体の活動の充実を図る。一生懸命に取り組めない子に対して、ミニミニグループで異年齢のかかわりのなかで、リーダーやフォロワーとして位置づけ活動のよさを実感できるように進めていく。
- 6 危機管理を含め、学校づくりにおける諸課題を共有できる開かれた学校とするため、学校運営協議会、地域づくり会議、公民館、PTA等とさらなる連携・協働を深める。

大町市立美麻小中学校
校長 山岸 澄雄